

1人1台端末の活用による実践事例

(小・中学校)

学校名	美咲町立旭小学校	実践者名	鈴木 秀和
教科等	国語	学年	第4学年
		授業活用段階 (岡山県版)	Stage 2
育成したい 資質・能力	詩「根」を読み、題名を考える中で、一人一人の感じ方に違いがあることに気づき、考えたことを伝え合うことができる。		
単元・内容等	詩「根」を読んで、題名を考える。		
児童生徒の実態 (端末活用頻度等)	理科や社会、総合的な学習の時間で情報収集や情報の整理、記録等を中心に活用している。単元により使用頻度の増減はあるが、週2～3回は使っている。		
活用の概要（使用アプリ名を含む） ※写真も掲載する			
【端末活用のねらい】 本時は、Jamboard を児童の考えを共有したり、発表を促したりするためのツールとして自由に活用できるようになることである。 本時では、詩「根」の題名を考える活動を通して、自分の考えを全体に共有するために Jamboard を活用した。活動の中で、詩の題名と名前を入力させることで、題名を考えた理由を説明する必要感や友達がその題名にした理由を聞きたいという必要感を持てるようにした。			
【授業の概要】 (1) 自分の考えを書く ワークシートに自分の考えた題名と理由を書く。			
			
			
(2) Jamboard に記入する Jamboard の付せん機能を活用し、自分の考えた題名と名前を記入する。			
			
(3) クラス全体で共有する だれがどんな題名を考えたのか全体に示す。			
(4) 理由を発表する 自分の考えを発表したり、気になった題名を考えた児童に理由を聞いたりする。			
			
実践者の手ごたえ		児童生徒の振り返りや反応等	
端末が学習の邪魔にならないように、机上での置き場を決めておいた。Jamboard を使って、児童がお互いの考えを見える化したことで、友達の発表を聞こうとする意欲につながったことが児童の反応から見取ることができた。児童の主体性を高めるための手立てとして効果があったと思う。まだ、教師から端末を使う場面を指示しているので、端末と紙ベース等を児童が選択できるような提示をしていく必要がある。		(児童のようす) Jamboard の活用に全員慣れた様子で、スムーズな入力、自分や友達の付せんを配置を考えていた。 Jamboard の付せんを見て、児童は自然に「同じ」「違う」「どうして」と比較や予想、関係付けをしていた。	

